



平成 27 年 5 月 28 日

各 位

会 社 名 イメージ情報開発株式会社  
代表者名 代表取締役社長 代永 衛  
(コード: 3803、JASDAQグロース)  
問 合 せ 先 取締役経営管理室長 佐藤 将夫  
(TEL:03-5217-7811)

### 中期経営計画の提出等について

当社は、平成28年3月期～平成30年3月期に係る中期経営計画を策定いたしましたので、当該中期経営計画を記載した資料を提出いたします。

なお、以下のとおり、当該中期経営計画について、アナリスト向け説明会を開催いたします。

開 催 日 時	平成27年6月10日 10:00～11:30
開 催 場 所	本社1階会場(東京都千代田区猿楽町2-4-11 犬塚ビル)

なお、当該資料について、当社のホームページに掲載いたします。

U R L	<a href="http://www.image-inf.co.jp/">http://www.image-inf.co.jp/</a>
掲 載 日	平成27年5月28日

#### 【添付資料】

平成28年3月期～平成30年3月期 中期経営計画

## 平成28年3月期～平成30年3月期 中期経営計画

### 1. 今後3か年の中期経営計画

#### (1) 当中期経営計画提出時点における前事業年度の総括(計画に達成状況、成果及び課題)

当期における当社を取り巻く市場環境は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動もみられましたが、企業収益が改善傾向となり、緩やかながら回復基調で推移しました。

当社グループの主要な事業領域である情報サービス業界においても、企業のIT投資は回復傾向にありますが、利益率の低迷は未だ続いております。

このような環境の中、当期の連結売上高は839,188千円(前年同期比5.0%減)となりました。

一方、売上原価率が上昇し、営業損失92,365千円(前年同期は営業利益18,021千円)となりました。また株式会社北栄(以下「北栄社」という。)が保有する船舶の事故等により「持分法による投資損失」を79,435千円計上したこと等により、経常損失178,907千円(前年同期は経常利益4,159千円)、当期純損失は76,706千円(前年同期は当期純利益12,632千円)となりました。

このような状況において、当社はこれまで培ってまいりましたIT活用による提携企業へのコンサルティング機能を高め、先進的マーケティングソリューションの提供等により新たなサービスの創造とマーケットの開拓、さらに新たな異業種企業との提携による収益創出事業の展開を図っております。

また、平成27年3月30日に当社が保有する北栄社の株式の一部を譲渡し、これにより持分法適用関連会社から除外しました。これは、北栄社が那覇空港第2滑走路増設工事等での大量の海砂供給を行うためには船舶増設が必要であり、この購入資金の調達を沖縄県内公的金融機関等からの融資で行う計画を実現する目的であります。これを機に、当社は従来の契約を解消し、北栄社の海砂利採取事業以外の新規事業推進のサポートならびに北栄社から当社への施策の協力を目的とした業務提携契約書を締結し、双方の業績改善を図るものであります。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### 〔コンサルティング／設計／構築〕

企業システムのコンサルティング及び設計、開発の業務受託等につきましては、大手企業のシステム構築の受注は継続しましたが、北栄社の事故等によりコンサルティング売上が計画通りに計上できなかったこと等により、売上高は355,879千円(前期比13.9%減)、セグメント利益は35,750千円(前期比64.4%減)となりました。

#### 〔運用／保守〕

企業システムの運用及び保守の業務受託につきましては、前期からの継続した受注とセキュリティ関連システムの運用商品が堅調に推移し、売上高は199,474千円(前期比3.9%減)となりましたが、売上原価率の上昇により、セグメント利益は7,936千円(前期比83.4%減)となりました。

#### 〔商品販売〕

商品販売につきましては、セキュリティシステム商品の販売が伸長し、また子会社の化粧品販売事業が堅調に推移したことから、売上高は94,354千円(前期比21.6%増)となりましたが、販売促進費用負担増によりセグメント損失は2,016千円(前期はセグメント利益2,134千円)となりました。

#### 〔BPO／サービス〕

BPO(業務アウトソーシング)及び決済等各種サービスの提供につきましては、継続的な取引による売上を確保し、売上高は189,479千円(前期比2.3%増)、セグメント損失は9,452千円(前期はセグメント損失5,791千円)となりました。

## (2) 中期経営計画の概要及び策定の背景

当社グループは、ビジネスインテグレータを標榜し、IT戦略を核に企業ビジネスのサポートを担ってまいりましたが、時代の変化、求めに応じて変化や顧客ニーズの多様化に合わせ、

①IT活用による先進的マーケティングソリューションの提供

②新規ビジネスサービスの創造と実践

を経営の基本方針としております。

当社グループは、平成27年3月期連結会計年度におきまして当期純利益が赤字へ転換しましたが、平成28年3月期では大手企業のシステム更改受注が既に契約できており、これにより商品販売及びシステム設計/構築事業の売上が増加し、当該売上で約60%の増収となる見込みであります。加えて、北栄社が受注を予定しております那覇空港第2滑走路増設工事等での大量の海砂供給からのコンサルティング売上高の拡大や自社開発のパッケージ商品の拡販等により、平成28年3月期通期において67.1%の増収を計画しております。また、売上の増加に加えて不採算事業の見直し等により、大幅な増益となる見通しであります。

今後さらなるマーケティング戦略の強化を図り、新たな事業領域を開拓することにより、本中期経営計画の最終年度平成30年3月期におきましては、売上高1,425百万円、経常利益417百万円を計画いたしております。

## (3) 事業の進捗状況及び今後の見通し並びにその前提条件

主要な事業領域である情報サービス業界の本格的な回復が見えない状況にありますが、システム設計を主力事業とし、堅実な受注拡大に加え、総合コンサルティング業務の受託等、新たなサービスの創造とマーケティング戦略を駆使した新たな市場の開拓に注力してまいります。

コンサルティング/設計/構築分野は、大手企業等からの受注を獲得するなど、今後の見通しは、主力取引先業界(クレジット・製造・流通)を中心に継続的な受注獲得に加え、営業力強化により新規受注の拡大を図ってまいります。また、取引先の発展に貢献でき、利益率の高いコンサルティング事業強化により、セグメント利益の大幅な改善を図ります。

運用/保守分野では、大型システム設計案件の増強に伴う設計終了後の売上高増を計画しております。さらに会員組織化された企業との取引拡大により、新たな売上高確保を図ります。

商品販売分野では、平成28年3月期では既存取引先からの大型機器入替受注があり、一過性とはなりますが、大幅に拡大いたします。従来のシステム設計案件の受注に伴うIT製品の販売、及びセキュリティパッケージソフト等の販売促進に継続して傾注し、収益性の向上と安定的な成長を目指します。

BPO/サービス分野では、簿記検定試験等のWeb入会システムの取扱拡大やデジタルサイン等々の新技術を活用した地域活性化サービスの本格稼働により、継続的な成長を図ります。

## 2. 今後の業績予想及び今後の実績目標

【連結】

単位：百万円

単位：百万円

	平成27年3月期		平成30年3月期
売上高	839		1,425
経常利益	△178		417

平成28年3月期以降は、主要取引先の業績向上にともない、前項(3)に記載した内容に傾注することにより、既存事業は各年度で約10%の売上増を見込んでおります。また、北栄社の那覇空港第2滑走路増設工事等における海砂供量の増加に連動した当社の売上高拡大により、当社の収益拡大に大きく貢献することを見込んでおります。

以上